

ちょっと気になる八王子マガジン

は ち ど ろ ひ

特集

いち ょう ホ ール



いちようホール（大ホール）の舞台に立つ車人形

2025年 清風号

No.61

Take Free

〈ご自由にお持ちください〉

リニューアル後の魅力を徹底解剖！

市民と歩むいちようホール

にぎやかだった本町の思い出

八王子市役所のあった頃

イベントとともに楽しめる

いちようホールへ行ってみよう！

元気印の市民団体紹介

コラム 八王子の民俗誌⑦

コラム 八王子自然探訪⑬

私の本はこうして生まれた 其の六十一

八王子美術連盟

芸能の場としての公的ホール

八王子駅からいちようホールまで歩いてみる

『浅川地下壕 — 八王子に眠る東京都最大の地下壕』

佐藤 広
粕谷 和夫
齊藤 勉 著

2025年7月に大規模改修を終えて、晴れてリニューアルオープンを迎えた「いちょうホール」。公演や展示、会議などに利用したり、ステージを鑑賞したことがある方も多いと思います。リニューアルにあたって館内はどのように変わったのか、またそもそもいちょうホールとはどのような場所なのか、関係者の方々に話を伺いました。

リニューアル後の魅力を徹底解剖！

市民と歩む いちょうホール

リニューアルに向けた動き

いちょうホールは正式名称を「八王子市芸術文化会館」といい、大ホール、小ホールはじめ、練習室や展示室、茶室、創作室、会議室などを備えた市内で一番大きな総合文化施設として知られています。1994年の開館以来、音楽・演劇の公演や美術展など、市民の文化芸術活動の場として活用されてきました。

いちょうホールが開館するまでは市民にとって発表の場という上野町にあった旧市民会館くらいしかありませんでした。開館当時の記事を見ると「いままでもこんな立派な舞台のあ

るホールはなかった」「あんな立派なホールができてうれしい」といった歓迎の声が見受けられます。まさに市民にとって待望のホールだったのです。

そして四半世紀を経て、各種設備の更新が必要となり、市は2019年に「芸術文化会館大規模改修基本構想」を策定。これをもとに、2023年11月から大規模改修工事がスタートしました。

工事期間中、設計監理・建築・電気・空調・衛生・舞台・音響・照明の関係者と市が連携を図り、予定通りに工程を進めます。ただ、その途上で直面した設計変更など、あらゆる課題に正面から取り組んでいました。より良いもの、期待に添ったものをつくりあ

リニューアル point ① エントランス

受付はラウンド型にして位置を変更。座って利用できるよう台を低くしたスペースを新設



壁面は随所に多摩産材ボードを使用



▲いちょうホール外観

げていこうという思いのもと、工事は進められたのです。



やさしさとやわらかさ

館長の設楽悦郎さんにお話を伺うと、今回のリニューアルで特に八王子市が意識したキーワードは「空間のやさしさ、やわらかさ」だといいます。たとえば入口からホールや各部屋に向かう動線には曲線が多用され、受付もなめらかな曲線を取り入れたものになっています。

新たな顔としてエントランスに配置されたベンチやソファは、サレジオ工業高等専門学校デザイン科の学生（当時）がデザインしたもので、いちょうをモチーフにした「つつみこむベンチ」と、6人掛けの「つながりソファ」が入場者を迎えてくれます。これらのベンチや壁面に多摩産材を使用していることもポイントです。

ロビーコンサートスペースは以前より空間が広がり、明るくなりました。これからはロビーコンサートをはじめ、エントランス付近でもさまざまなイベントの展開が期待できます。

また、居心地の良さを意識した設計もなされています。いままで可動式だった小ホールの客席は固定化し、それに伴い椅子の幅も広く、背もたれも

長くなり、ゆったりと座ることができるようになりました。

「以前より館内全体の雰囲気はやわらかくなって、人と人をつなげるような温かみを感じる公共空間がつけられたのではないだろうか」と語るのは芸術文化振興課の米倉楽課長。「改修が終わって完了ではなく、むしろこれからがスタートと捉えて、多様な活用方法を模索したい」と語ります。



バリアフリーを目指して

今回の大改修ポイントの2点目はバリアフリー化です。リニューアルによって車いすを利用する方や子育て中の方にも使いやすいホールになりました。たとえばトイレはすべて洋式化され、「だれでもトイレ」はいままでの3か所から6か所に倍増しました。

このほか茶室の前の路地を、本格的な飛石に替えて敷石にしたり、ホール北側に車寄せを設置したりするなど、誰もが入りやすい、歩きやすい構造に衣がえしています。小ホールにいままでなかったエレベーターを設置し、ホールに向かうスロープの幅も広げました。大ホール、小ホールともに車いす席を増やしています。

誰もが利用しやすいという点では、重厚な机を使用していた会議室は、折



つつみこむベンチ（上）とつながりソファ（下）。学生がデザインした椅子を新設

ロビーコンサートスペースを拡充



小ホールへ向かうスロープをいままでもりも幅広く

り畳み式の机にすべて入れ替えることで、収納すれば会議以外にも使えるように工夫されています。同じく入口付近、カフェのあった場所は多目的室となり、より広い用途で使えるようになりました。

「もともとの良さはそのままに、時代に合った改修をしたというところですかね」と語るのは、いちようホールで15年にわたって舞台監督を務めてきた高橋洋平さん。高橋さんはじめ、間近に見た多くの方から「全体的にきれいになっただけでなく、館内が動きやすくなった」との声が多く聞かれました。



いちようホールの役割

設楽さんは、いちようホールの役割を「八王子市文化芸術ビジョン」の「市民の活動支援の拠点」にあると話します。市内にはほかにも市民が利用できるステージがありますが、多彩な用途に対応できるステージである反面、音響に特化したつくりにはなっていないところもあります。

一方、いちようホールの大ホールは反響板の形状そのものがかまぐらのような、包み込まれる雰囲気を出しており、音響にこだわったつくりになっています。「あの形を見ただけで、このホールをつくった方の思いが伝わ

るんです」と熱く語る設楽さん。いちようホールだからこそ響かせることのできる音、表現できる舞台があるのです。



さらなる魅力を引き出して

コロナ禍の際、文化活動を中止したり、やめたりした方が多いと耳にします。設楽さんは「こういう方たちにも何とか活動を再開していただき、いちようホールに戻ってきてもらいたいですね」と、これからの市内の文化活動の隆盛に期待を込めます。

文化団体の皆さんからは、いちようホールの改修工事期間中に、公演する場を探すのにとっても苦労したとお話を多数伺いました。

開館以来30年以上の歴史の中で、いちようホールは既に市民にとってなくてはならない文化施設となりました。ちょうど良いステージとして、多くの方に認知されています。

ただ、米倉さんが語るように、まだまだできること、伸びしろもあるはずです。市民が積極的に活用していくことで、新たないちようホールの「良さ」が出てくるかもしれません。文化芸術に携わる方々の発表の場が重ねられていくことで、今後さらなる発展もみせてくれることでしょう。

リニューアルpoint② ホール



小ホールの舞台、客席、床は濃茶色を基調に落ち着いた空間に。エレベーターを新設



大ホールの座席の布地はいちよう並木が黄葉するイメージで配色。ホワイエの天井は幕天井に





八王子車人形家元 西川古柳さんに聞く



▲いちょうホールでの練習のようす

公演情報

12月6日(土)
いちょうホールリニューアル記念
八王子車人形 西川古柳座襲名披露公演
開場 ▶ 13:30 開演 ▶ 14:00



ホンを設置したり、字幕を出したりして、もっと分かりやすく表現できる工夫をしてほしいということがあります。ぜひこれからも最先端の技術をどんどん取り入れていってほしいですね。ホールというと、どうしても一般の人たちにとって敷居が高いんです。通りすがりの方もふらっと入りやすいような場所になってほしいですね。

私たちは日頃、学園都市文化ふれあい財団の皆様に応援してもらい、いちょうホールに育ててもらってきたことに感謝しています。これから私たちも演じる中でより良い舞台がつかれるよう模索していきたいです。劇場の成長とともに、私たち自身も成長できればと考えています。

いろんな方の思いを反映させた中での改修だけあって、やはり使い勝手は良くなりましたね。バリアフリーになり、ロビーも広くなって、いままでにない使い方もできそうです。欲を言えば、イヤホンを設置したりして、もっと分かりやすく表現できる工夫をしてほしいということがあります。ぜひこれからも最先端の技術をどんどん取り入れていってほしいですね。ホールというと、どうしても一般の人たちにとって敷居が高いんです。通りすがりの方もふらっと入りやすいような場所になってほしいですね。

リニューアルpoint③ その他



2階市民ロビーのガラス面に遮熱性が高いカーテンを新たに設置して暑さを緩和

会議室は机や椅子を収納できるものに入れ替え

楽屋は椅子を入れ替え、車いす対応のシャワー室を設置



茶室の路地庭は飛石を敷石に変更（敷石は改修前に玄関前に敷かれていたものを再利用）し、歩きやすく

いちよう ホール

リニューアルオープン 記念イベント

2025年7月1日、いちようホールリニューアルオープンの日の午後
に内覧会、翌2日には記念式典が開催されました。そのイベントのよう
すと特別協力を担った八王子文化連盟の活動についてご紹介します。

リニューアルオープン当日に開催さ
れた内覧会。参加した市民の皆さんは
生まれ変わったいちようホール内部
を、所定のルートをたどりながら隅か
ら隅まで見て回り、ふだんはあまり訪
れることのない、誰もいない舞台のよ
うすを見学していました。

当日は記念品としてクリアファイル
が配布されたほか、大ホールの椅子に
使用していた生地を加工したしおり
や、所作台再生の際に発生したカンナ
くずでつくった「ヒノキの香袋」（い
ずれも福祉作業所で制作）を配布しま
した。

翌日の記念式典では、第1部にオー
プニングセレモニーとして、市長をは
じめとした来賓によるテープカットを
実施。その後に八王子車人形西川古柳
座が、舞台清めとして三番叟を披露し
ました。第2部のこけら落とし公演で
は、八王子文化連盟所属の6団体（八
王子吟剣詩舞道連盟、八王子新舞踊連
盟、琴伝統大正琴連盟平成会、中之島
流大正琴、八王子洋舞連盟、八王子日
本舞踊連盟）が参加して舞台に花を添
えました。

八王子文化連盟はこのほか、ロビー
コンサートに3団体（八王子音楽教室
連合会、八王子ウィンドアンサンブ

ル、八王子三曲連盟）が参
加し、展示（八王子美術連
盟、八王子書道連盟、新百
彩会、八王子フォトクラ
ブ、武州八王子下原刀研究
会、日本盆栽協会八王子支
部）や体験イベント（八王
子香の会、八王子茶道連
盟、八王子煎茶会）などにも
参加。入口すぐの迎え花
は所属団体の1つ、八王子
華道連盟によるもので、華やかな彩り
を与えていました。

「私たちは毎年秋に八王子市民文化
祭を開催して、個別のイベントを展開
していますが、それにこだわらず、今
回のように1日楽しめる催しや若者を
呼び込めるようなイベントも展開した
いでですね」と今後の抱負を
語るのは、八王子文化連盟
理事長の土井俊彦さん。

八王子市民文化祭では、
今年も市内各所で八王子文
化連盟所属の29団体が自身
の演奏や展示などを披露し
ます。この秋はいちよう
ホールをはじめ、市内でさ
まざまな「文化」に触れて
みませんか？



▲展示会場のように



▲内覧会のように



▲こけら落とし公演（中之島流大正琴）



八王子文化連盟の情報、八王
子市民文化祭についての詳細
はこちら
<https://www.8bunren.com>

いちようホールのある場所は、以前どんな建物だったかご存知ですか？ 実はいまの八王子市役所の前の庁舎があったんです。本町にあった旧庁舎は1951年3月に開設され、元本郷町の現庁舎が完成する1983年10月まで業務を行っていました。いまや昔の面影はまったく残っていませんが、当時を知る方にその思い出を語っていただきます。

にぎやかだった本町の思い出

八王子市役所のあつた頃



人の多い市役所

「旧庁舎には冷房がなかったんですよ。扇風機が天井についていたものの、書類が飛ばないように気を遣いながら小さく運転していました。でも私のいた1階の市民課は前が

駐車場だったんで、窓を開けると排気ガスが入ってきて、えらい大変でした。冬になれば石油ストーブを点々と置いて、それでも寒いからカウンスターではスチームのヒーターを抱えて仕事していましたね。とにかく夏は暑くて、冬は寒い場所でしたよ」

こう語るのは1972年に市役所に採用され、市民課に配属された小澤良行さん。当時は旧庁舎の近くに警察署や法務局、お店も建ち並び、人通りが多くて賑やかだったと振り返ります。

当時の旧庁舎は入口から正

面階段を上った2階には市長公室があり、その部屋には洋画家小島善太郎の代表作、「滝山展望」が飾られていました。

また、入口からすぐ左が案内係。その隣の市民課では戸籍や住民票などの対応をしていました。市民課の前の、納税課との間の廊下に記載台があり、その狭い場所に人がたくさん来ていたため、年度の切り替わりの3月、4月になると、人でごった返して対応に追われていたそうです。



目に浮かぶ庁舎の姿

やがて町村合併で八王子市域が拡大し、人口が急増する中で、行政需要の拡大に伴う職員数の増加により、旧庁舎内はさらに手狭になっていきました。そこで大横町の現在の子ども科学館周辺や市役所裏の織物工場跡を分庁舎にし



▲本町にあった八王子市役所旧庁舎の外観（八王子市職員等事業本部提供）

たりして、本庁舎の業務を分散させるようになります。庁舎移転の構想は1966年からあったものの、紆余曲折の末、元本郷町の現在地に決定したのが1978年。その後、建設に合わせて本町の旧庁舎でも移転の準備が進められていきました。

狭隘な職場ならではの苦勞もあったようですが、一方で「いまよりも職員同士、人と人とのつながりは強かったですね」と当時を振り返る小澤さん。いまもいちょうホールの前を通ると、「ここは旧庁舎だったんだなあ」と感慨深くなるそうです。その証左に当時の旧庁舎の内部だけでなく、周囲の店の配置なども鮮明に覚えていて、事細かに説明していました。

いまは閑静な住宅街の一角となりましたが、人でごった返したかつての市役所の風景がいちようホールには秘められています。



▲小澤良行さん



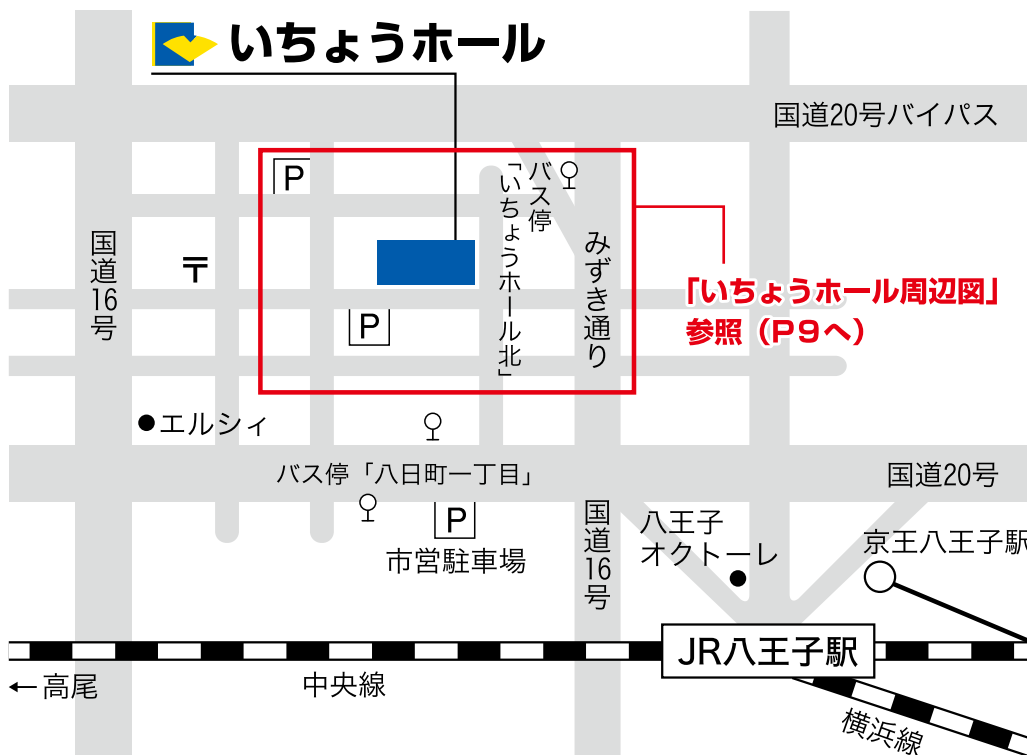
いちょうホール基本情報

〒192-0066 八王子市本町24番1号
 電話 042-621-3001
 開館時間 午前9時～午後10時
 休館日 毎週月曜日（ただし、その日が休日にあたるときは、その翌平日）、
 12月29日から翌年1月3日まで
 アクセス
【徒歩】 JR八王子駅北口から徒歩15分、京王八王子駅から徒歩20分
【バス】 JR八王子駅北口6番、京王八王子駅2番乗り場の市街地循環バスで「いちょうホール北」下車徒歩3分（8時～18時8分までの間に30分に1本）
 JR八王子駅北口6～10番、京王線京王八王子駅1・2番乗り場ほか「八日町一丁目」下車徒歩5分

八王子駅からやや離れた場所にあるいちょうホールですが、周辺には魅力的な場所がいっぱいあります。今回は関係者にお勧めのお店を伺い、そのうち4店をピックアップ。イベント開催時に限らず、いちょうホール周辺にふらっと立ち寄ってみませんか？

各施設の情報は①住所、②電話番号、③営業時間、④定休日

いちょうホール
 行ってみよう！



B café de la poste



フランス人店主の焼きあがる本場フランスのガレット
 ① 本町14-10
 ② 070-5364-11973
 ③ 平日 11時30分～16時 / 土日 11時30分～21時30分（休憩有）
 ④ 火・水曜休み

A boulangerie Salle de Bains



フランス仕込みの小さなパン屋さん
 ① 本町25-16
 ② 623-6938
 ③ 10時～18時
 ④ 日・月・火・木曜休み（売り切れ次第閉店）



D

肉の富士屋

④ 年中無休

③ 10時〜19時

② 6月22日〜9月5日

① 横山町16-6

ご提供
総合食肉と職人による手作り総菜を

C

Live&Cafe SAKURAYA

④ 月・火曜休み

③ 10時〜17時 (ライブイベント時は演奏時間によって終了時間が異なります)

② 6月9日〜10月6日

① 八日町10-11

ライブイベントも楽しめる昭和の薫り残る喫茶店



の市民団体紹介

応援します
市民力。

市内で活躍する元気な団体・サークル・同好会を紹介するコーナーです。
活動内容やイベント情報など、編集部までお知らせください。

◆お問い合わせ：八王子美術連盟事務局 042-686-0018
◆HP <http://hachibiren.com>

八王子美術連盟

もっと美術を身近なものに

八王子美術連盟は1941年、
第1回総合美術展を主催した八王
子文化連盟美術部を前身として活
動を開始しました。

活動の中核をなすのは八王子市
民文化祭の一環として毎年秋に
開催されている「八王子美術展」
で、会員各々が油彩・水彩などさ
まざまな作品を出品します。特色
ある会の活動としては、1972
年に第六中学校の教室で始まった
「裸婦デッサン会」が挙げられま
す。現在はいちようホールの創作
室で月3回開催。50年以上という
長きにわたって途切れなく続いて
いるだけあって、モデルの方から
の信頼も厚いそうです。1998
年から始まった「画廊散歩」は、
市内7画廊を舞台に毎年3月に開
催。会員だけでなく一般市民も参
加できる公募展として年々出品者
も増加しています。また、美術館
巡りと美術関連施設の見学会など
を通して会員同士の親睦を深めて
います。

多彩な活動を続ける八王子美術
連盟の委員長を2023年から務
めているのは、美術連盟に所属し
て22年となる小峰英男さん。就任

後、現状

に即した

運営体制

の構築を

目的に会

員規約の

改正や役

員会の定

例化など

を実施し

たほか、

近年の会

員数の減

少傾向に歯止めをかけるためホー

ムページの開設や会員募集チラシ

の作成・配布など、会員サビス

の充実と情報発信の強化に取り組

んでいます。こうした努力によ

り、会員数も少しずつ上向き、現

在は170名となりました。

「私たちは地域の文化交流の一

翼を担い続けることが大事だと思

うんです」と語る小峰さん。地域

の美大生とのコラボや小学校への

講師の派遣など、さまざまな形で

地域貢献をしたいと今後の抱負も

語ります。市民にとつてもっと

「美術」が身近なものとなるよう

に、八王子美術連盟は今後も次々

と企画を展開していくことでしょ

う。



▲昨年の八王子美術展の様子

八王子書道連盟

八王子の
書道を
一緒に
盛り上げ
ませんか？

- 年会費は1万円！
- 初心者大歓迎！
- 詳しくは下記まで！
- 問 090-7008-5580 (菅沼)

第71回
学生書道展

11月18日(土)に、八王子市立第一中学校で第71回学生書道展を開催いたします。

と 全：令和7年11月18日(土)～11月23日(日)
午前10時～午後5時(23日は午後4時迄)

ところ：八王子市中央図書館地下展示室、八王子市駅北口下南徒歩8分
表紙式：令和7年11月23日(日)14時～ 同会場にて実施

主 催：八王子書道連盟
(連絡先：八王子市中央図書館1-3-14 管沼 042-622-5580)

後 援：八 王 子 市
八 王 子 市 議 会
八 王 子 市 教 育 委 員 会
八 王 子 市 商 工 会 議 所
皇 親 堂

八王子市中央図書館(地下展示室)

申込締切
9/15(月)

第75回
書道展

令和七年十一月六日(土)～十一月九日(日)午前10時～午後六時まで
(なお十一月六日(土)は午後一時から十一月九日(日)は午後三時まで)

と ころ：八王子市市民文化センター(八王子市八王子駅北口十一階)
ギャラリートーク(八王子市駅北口、徒歩三分)

第75回八王子市民文化祭「未来につなぐ文化の花」

主 催：八王子市民文化祭実行委員会／八王子市
後 援：八王子市市民文化センター／八王子市教育委員会／八王子市商工会議所
協 賛：八王子文化連盟連盟／八王子市文化会／八王子市文化会
協 賛：八王子市文化連盟
主 催：八王子市文化連盟(連絡先：八王子市中央図書館1-3-14 管沼 042-622-5580)

75
あひだのつぎ
あひだのつぎ
あひだのつぎ

申込締切
9/30(火)



※ここは「はちとぴ」を応援してくださっている方々に自由に使っていただく
フリースペースです。今回は「八王子書道連盟」です。

八王子の民俗誌 27

八王子地域社会研究会 代表 佐藤 広

芸能の場としての公的ホール

江戸時代、様々な芸能は、現在の八王子市域でいつと、どこで行われていたのだろうか。

手元にある浅川地区の江戸期の日記をみると、元本郷町の多賀明神、元八王子町の八幡神社、片倉町の慈眼寺、長房町の長泉寺、狭間町の御獄神社、東浅川町の興福寺、初沢町の大光寺・高乗寺、高尾町の氷川神社・高尾山薬王院、下恩方町の浄福寺などが記されている。ただ、私が知らないだけで、何らかの芸能は各地域のほとんどの社寺で行なわれていたのだろう。ムラの小さなお堂や有力者のお宅で行われたり、空き地を使ったり、畑に仮設の舞台を設けることもあった。

神へ奉納する湯花・神楽・相撲、疫病を払うための大念仏、獅子舞、人々が楽しむ歌舞伎・人形芝居・座頭芸・かるわさ・手踊り・手妻（手品）・子ども踊り・万作芸・浄瑠璃語り、仏教の説教、説法などもあった。

芝居や人形芝居が行われるのは、台風などの被害から農作物を守るための風祭が行われる二百十日前後、8月から9月が多い。また祭礼や農閑期である。

繊維産業で急激な発展をみせた八王子の中心部では、明治になると劇場の閑谷座、定席の屋根寅亭・長谷川亭・鶯金亭・横山亭などで、芝居や演芸が楽しまれた。

昭和30年代から40年代でも、農村部では神社境内に神楽殿や常設の芝居舞台があり、地域のプロの芸能集団が芝居や舞踏を演じて人気を博していた。

郷土資料館で、^{ほつかん} 荏間芸を披露していた。また10年近くお世話になった万作芸は、公的なホールなどでの公演を重ねることに、次第に洗練されていった。

市民会館が開館した後も、八王子市人形は郷土資料館の集会室や市民会館2階の和室の踊り舞台を使用していた。やがて各地の伝統芸能は、公的なホールでの公演が多くなっていった。八王子市の伝統芸能は、旧市民会館やいちようホールの舞台をベースに、大きく成長し、発展してきた。そうした芸能を後世に継承していくには、これからもちようホールをはじめとした公的ホールは欠かせず、その存在意義は大きい。



▶寄席や神社の祭礼などで公演していた芸に磨きをかけ、大ホールでの公演や海外公演も手掛けた八王子市人形の四代目西川古柳師の稽古風景（1996年秋 筆者撮影）

八王子駅からいちようホールまで歩いてみる

八王子自然探訪 13

八王子・日野カワセミ会 会長 粕谷 和夫

京王八王子駅またはJR八王子駅のどちらからでも、市街地循環バスを利用すればいちようホールまで簡単に行ける。しかし西放射線ユーロードは街路樹の見本市のような所なので、次から次へ種が変わる街路樹を鑑賞しながら歩いてみることをお勧めする。

まずはJR八王子駅北口を出てマルベリーブリッジを渡り、西放射線ユーロードに向かう。この道には小さな三角広場が3か所ある。最初の三角広場にはシモクレン3本が北側に並んでいる。春、他の花に先駆けて咲く上向き大きな花が紫色であることからシモクレン。みさき通りをこえるとヤマボウシがあり、途中からハナミズキに変わる。両種は兄弟で、アメリカから渡ってきたハナミズキは4月中頃、日本在来ヤマボウシはそれから約1か月遅れて花が咲く。野猿街道の手前でイロハミズギが3本並ぶ。第2の三角広場にタイサンボク（泰山木）が3本とシタレヤナギが2本、ヤナギの下には「お帰りのさいDr. 肥沼」の碑が立っている。タイサンボクは「ほうば味噌」で有名なホオノキと同じ仲間である。ホオノキが落葉樹であるのに対し、こちらは常緑樹。初夏になると、枝先に直径15cm以上もある、香りの強い大型の白花を咲かせる。大きな盃のような花姿から「大盃木」とも呼ばれ、「花が咲いているもの、散り始め、蕾」の様子が1本の本で同時に見られる。

通りを渡るとタムシバ1本、ハクモ

クレン1本、コフシ1本、ネムノキ1本と続く。タムシバはコフシと同じ仲間である。ここまで来ると右側の蔵が目に入る。Bisonの表示があり、蔵の前が手入れの届いた庭園風に整備され、椅子も置かれていて一休みできる。この蔵の東側の細い路地をたどるとお茶の網代園。7月にここを歩いた時はノリウツギが白い穂の花を咲かせ、ハナйкаタの実が熟し、小さな池にはメダカが泳いでいた。3番目の三角広場、横山町公園ではクスノキ3本、ヤマモモ5本が並んでいる。

ここでスクランブル交差点を渡り、みずき通りを進む。名前と似たハナミズギが街路樹として続く。以前は5月のゴールデンウィーク頃が開花期であったが、今は4月中頃には開花する。いちようホールに着くとクスノキ2本とそれより小ぶりのイチヨウが1本植えられている。市の木「イチヨウ」にちなんでつけられた名前の場所にしてはホール前のイチヨウが小さく貧弱に感じてしまう。



▲ユーロードのタイサンボク

私の本はこうして生まれた

其の六十一

『浅川地下壕 —— 八王子に眠る東京都最大の地下壕』 齊藤 勉 著

東京都有数の戦争遺跡、浅川地下壕。戦争末期に軍用飛行機のエンジンを生産する地下工場としてつくられ、戦後も様々な用途に利用され、紆余曲折を経ながら現在も高尾の山並みの地下に眠っています。これだけ大規模な地下壕はなぞつくりられ、どのような歴史を辿っているかに至っているのか。多数の図版や資料などで紐解き、歴史の事実を積み重ねることで、その真実を浮き彫りにします。この1冊で浅川地下壕のすべてがわかる決定版の登場です。



本には賞味期限がある、ガイドブックはなおさらである。

『フィールドワーク浅川地下壕——学び・調べ・考えよう』（浅川地下壕の保存をすすめる会編 平和文化）についてそう感じ始めたのは、数年前のことでした。

同書は戦後六十年を迎えた二〇〇五年に刊行され、浅川地下壕を中心に八王子の歴史と市内の戦争遺跡について記述しました。平和学習、フィールドワークのガイドブックとして活用してもらいたい。地下壕を「戦争の負の遺産」とし

て地域の方々が、調査・研究

し、平和のための活動の一参考書にしてほしいとの思いで作りました。二〇〇〇年から

段階的に導入されていた学校での総合的な学習の時間で、手軽に使用してもらえることも考えていました。戦跡の調査

の成果（小比企の三鷹航空機の疎開工場、高月のかな穴地下壕など）や、浅川地下壕についても最新の調査と研究の

成果を盛り込み、内容は充実していたと自負しています。ただ、その後、同書に紹介

された建物や施設が無くなるなど、次第に現状と合わないところが出てきました。戦跡への関心も高まり、八王子の

戦跡については、揺籃社が二

〇二〇年に『ガイドブック八王子の戦跡』（齊藤勉・井上健監修）を出版しました。

戦後八十年という時間の中で浅川地下壕を考えてみると、地元では何らかの形で地下壕と関わってきたことが分

かります。陸軍が買収した土地を元の地主へ払い戻す際には問題が多かったらしく、一

九九〇年代の陥没問題は生活そのものが脅かされかねませんでした。公開を含めた有効

利用を模索する動きもある一方で、郊外化、宅地化、そして開発の波にさらされ、自然環境や景観の保護を求めて市民運動が展開されました。



<http://asakawatikagou.web.fc2.com/>
浅川地下壕の保存をすすめる会のホームページ（見学会の情報はこちらから）

十年ひと昔といいますが、浅川地下壕をめぐる八十年間は現在、「歴史」になっています。本書はあらためて地下壕の掘削と地下工場の歴史を述べ、さらに地域の中で戦跡という「負の遺産」がどう関わってきたのかまとめました。戦跡の保存、公開への理解は、戦後のこうした歴史も踏まえることで深まると考えています。（著者記）

『浅川地下壕 —— 八王子に眠る東京都最大の地下壕』
浅川地下壕の保存をすすめる会・発行
定価600円＋税
A5判、64ページ＋口絵2ページ
※本書をお求めの際は、お近くの書店か当誌編集部までどうぞ。